

「海の森づくり」に取り組んで

—コンブ栽培への挑戦—

新湊漁協青年部
部長 松本隆司

1. 地域の概要

私が所属する新湊漁協は、2005年11月1日に5市町村が新設合併して発足した射水市の北西部に位置している。射水市は富山湾中央部に位置し、その海岸線は東西に7～8 kmと短い、地先の海岸は海脚と海底谷が複雑に入り込んで好漁場を形成している。

一方、当新湊地区は特定重要港湾に指定されている富山新港を中心とした重工業地域でもあり、産業・物流等の拠点として重要な役割を担っている。

2. 漁業の概要

地先の海岸では、定置網や底びき網漁業など色々な漁法で漁業が営まれ、県内で最も魚種が豊富な地域となっている。平成16年度末における組合員数は570人で、漁獲量4,500トン、水揚金額約24億円である。

3. 研究グループの組織と運営

私たちの青年部は平成7年に設立され、現在80名の部員で様々な活動に取り組んでいる。その内容は、魚のさばき方講習会・おいやらもん(伝統芸能の継承)・新湊海鮮まつり・漁業技術研修会等が主な事業で、この他に異業種間の交流も活発に行っている。こういった青年部活動による若者同士の交流が、当漁協に若者が多く根付いている大きな要因になっているものと考えている。

4. 研究・実践活動取組課題選定の動機

当漁協は、平成15年に広域合併して以来、①漁業生産力の向上 ②新湊産魚介類のブランド化 ③地域社会への貢献 の3点を重点取組事項とし、その実現に向けて事業を展開している。それらの中でも、特に「森林が海に与える作用」に着目し、10年以上も前から植樹活動に参加するなど、「森と川と海をつなぐ環境保全運動」に力を入れて取り組んでいる。

この漁協の事業の一環として、青年部ではヒラメ・マダイの中間育成やクロダイ・クルマエビの稚魚の放流など、獲るだけでなく資源管理型漁業の実践にも着手している。ただ、これらの事業は継続事業として行っているが、直接的な成果が見えにくいため士気が上がらず、その魚種に関係のない部員からは「私達とは関係のない魚種だから、手伝いたくない」などの不満も聞かれるようになった。

そういった中、当時青年部部長だった私に、矢野組合長から「漁協青年部でコンブ養殖に取り組んでみないか？」と提案があった。

元来、『天然の魚を獲る』ことにこだわりを持っており、養殖には抵抗があったが、「コンブは、海水に溶け込んだ窒素やリン等を吸収するため海水の浄化作用があり、富

栄養化の防止に役立つ。それにコンブをはじめとする様々な海藻は、アワビやサザエの餌となるばかりではなく、魚類の産卵床、幼稚仔の隠れ家・生育場所になるなど、漁業資源の増加につながる事が期待できる。」という組合長の説明を受け、養殖というよりも『海の森づくり』として環境を守るという観点から、これからの漁業を担ってゆく我々青年部員にとって、コンブ栽培は重要な活動の一つであると感じた。

しかし、これまでボランティア精神で多彩な青年部活動をこなしてくれた部員ではあったが、更に負担となる新規事業を提案しても受け入れてもらえるのか、というためらいがあった。そんな中、組合長と青年部役員との懇談会の席で、組合長が発した「漁協として全面的にバックアップするので、地元の海を自分達で育てよう！」との力強い一言が皆の共感を呼び、一致団結してコンブ栽培による『海の森づくり』に取り組むことを決意した。

とはいえ、青年部一同コンブ栽培は未経験であり、どこから手を着ければよいのか全く見当がつかなかった。そこで、「海の森づくり推進協会」の代表理事として活躍なさっている元鹿児島大学水産学部の松田恵明先生に相談したところ、栽培技術を一から指導していただけることになった。また、新湊漁協及び富山県漁連からも資金面・資材面で支援してもらえることになり、何とか事業実施の目処が立った。

5. 研究・実践活動状況及び成果

取り組みの1年目は、松田先生の指導の下、平成15年12月にコンブ栽培施設の設置作業を行った【図1】。私を含め作業に当たった青年部員は、「本当にこれでコンブができるのだろうか？」という一抹の不安を抱きつつ、慣れない手つきながらコンブの種付け作業を終えた。

冬から春にかけては富山湾の盛漁期であるため青年部員たちの仕事が忙しく、コンブのことが気になりながらも、なかなか生育の状況を確認することができなかった。ようやく、16年4月に入って間引きを兼ねて状況調査を行ったところ、漁港入口付近の生長は悪かったものの、漁港奥では良好に生長しており【図2】、「本当にコンブの栽培など出来るのか？」という設置時の不安も吹き飛んだ【写真1】。

その後、水温が20℃に達する6月に収穫したところ、やはり漁港入口側の生長が悪く全体の約3分の1は生育不良だったが、収穫量は約500kgと、初めての取り組みとしては期待以上の出来となった。

2年目の取り組みは、富山県水産試験場の技術指導をいただき、前年の結果も踏まえて栽培施設の設置場所を漁港の奥側にずらし【図3】、平成16年11月と12月に種付けを行った。その結果、翌年5月末の収穫量は約700kgと昨年以上の収穫となった【写真2】。

収穫前に生育の状況を確認したところ、昨年同様に漁港入口と漁港奥で生長に差が見られた。その原因を調査するため、イワガキ漁業を営んでいる青年部員に頼んで潜水調査を行った。その撮影ビデオによると、やはり生長の良い奥部側ではかなり流れがあり、大きく育ったコンブがユラユラと揺れていた。それに対し、入口部ではほとんど流れがなく、細く薄いコンブと養成網がほぼ真っ直ぐ下がっており、潮流等による海水の循環もコンブの生長に大きく関わっていることが分かった。これは、漁港奥部は漁港岸壁が海水を透過する構造のため、漁港外の海水が流れ込んでいることが良

好な生長につながったものと考えられた【図3】。また、コンブ付近には我々青年部が放流したと思われるヒラメのほか小魚が数多く見られ、蛸集効果もあることが確認できた。

これまでの活動の中で、種付けに使うロープの種類によってコンブの生長や根付きが異なること、設置場所によっても生長や収穫量が異なることなど様々な課題が出てきたが、今後一つずつ克服していきたい。

6. 波及効果

【漁協女性部等との連携】

我々青年部は海の浄化を目的にコンブの栽培に取り組んでいることから、当初はその結果として収穫されるコンブを養殖アワビの餌にでも使ってもらおうと考えていた。しかし、試しに間引きしたコンブを新湊漁協女性部に煮付けてもらい食べてみると、柔らかくて大変美味しいものになった。そこで、我々が育てたコンブを食材とした料理を女性部が運営する食堂でお客さんに提供してもらったところ、なかなかの好評を得たことから、市場での評価を確認する意味で収穫したコンブを市場のセリにかけてみた。すると、珍しさもあってか地元の料理店に思いがけない高値で買ってもらうことができた。

2年目は、天日で乾燥させたコンブを漁協の総会で組合員に配布したところ、「味が良く、ものすごくとろみがあって美味しかった。」との感想が多数寄せられるなど、私達の取り組みに対する理解を深めてもらえ、励みになった。

【食育の取り組み】

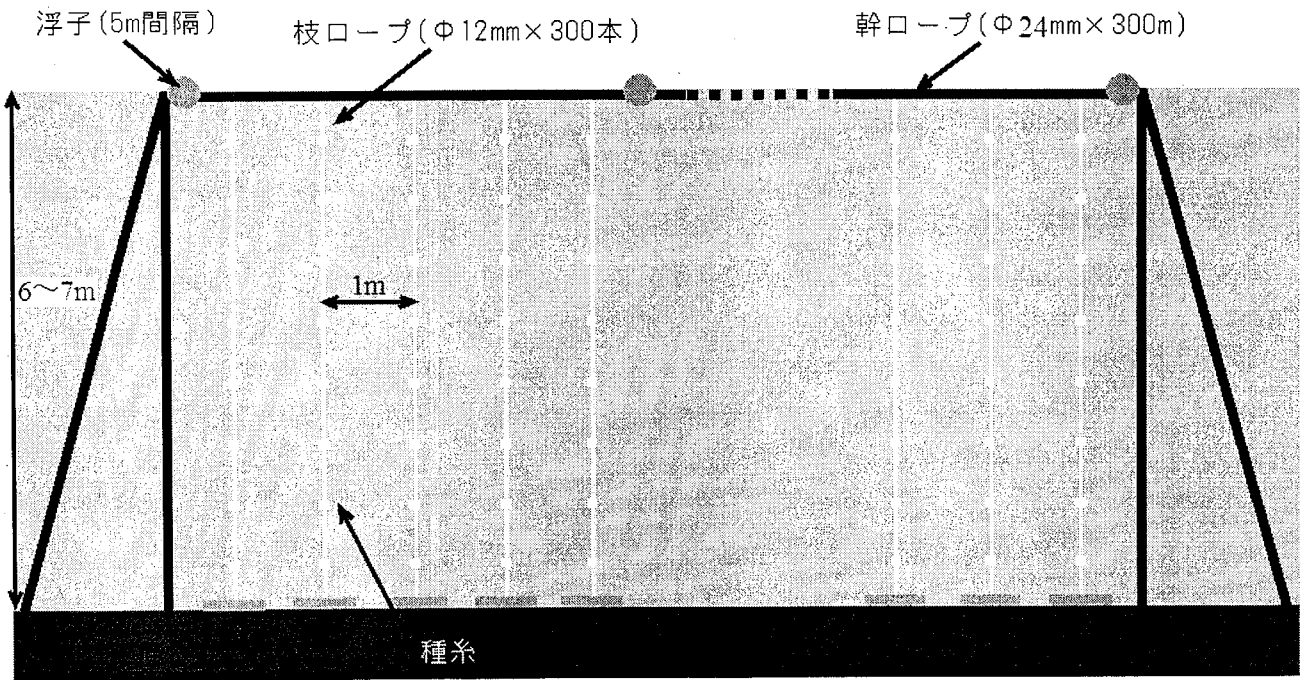
地元の子供達に私たちの「海の森づくり」の取り組みを知ってもらう活動も始めた。地元コンブ店に協力してもらい、『黒とろろ』に加工して新湊の全小中学生約3,100人の給食に提供した【写真3】。このことは、「食」と「生産」のつながりを子供達に実感してもらう良い契機になったと思う。また、地元ばかりではなく、NPO団体で漁業や魚食普及の活動を行っている「ウーマンズフォーラム魚」との連携も始まっている。平成17年12月には東京の子供達を新湊に招き、漁業体験の一環として我々と一緒にコンブの種付けを行った【写真4～6】。この活動を通して、地元だけでなく都会の子供達にも海の環境について考えてもらう良い機会になったと思う。

7. 今後の課題や計画と問題点

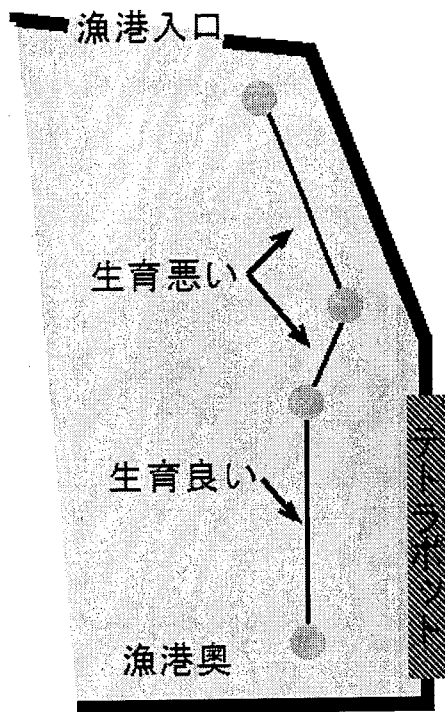
近年、地球規模での環境破壊や異常気象が問題になっている。私が定置網漁業に従事してきたこの20年余りの間に、魚種や資源量等が随分変わってきたと感じている。我々の生活基盤である海の環境も目に見えて悪化しており、海岸開発による砂浜や藻場の消失など多くの問題を抱えている。

私たちの「海の森づくり」はまだ試行錯誤の段階であり、海洋環境の改善に役立っていると胸を張って言える状況にはない。しかし、地域の漁業者の賛同を得つつあるなど、少しずつではあるが前進しているとの自負を持っている。

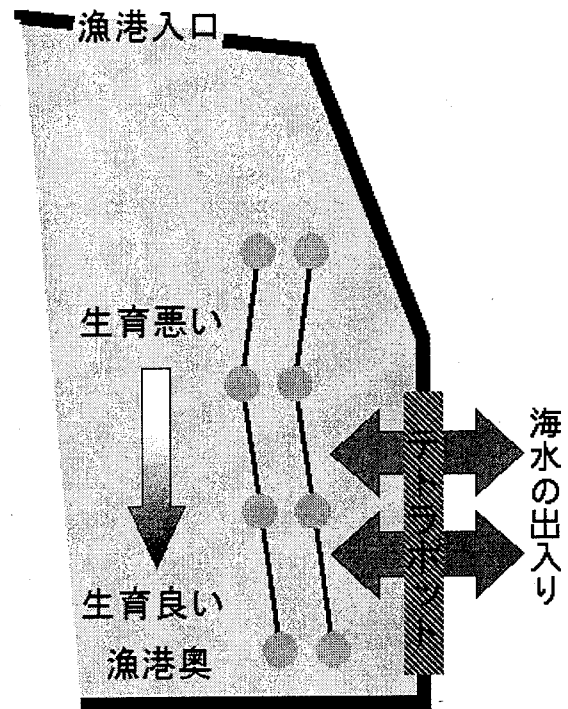
今後、様々な環境保全運動に取り組んでいる団体や、県内のみならず全国の漁業者の方々とも積極的に情報交換し、私たち漁業者の手で豊かな海を取り戻すことを大きな目標として、取り組みの輪を更に広げていきたい。



【図1】コンブ栽培施設 模式図



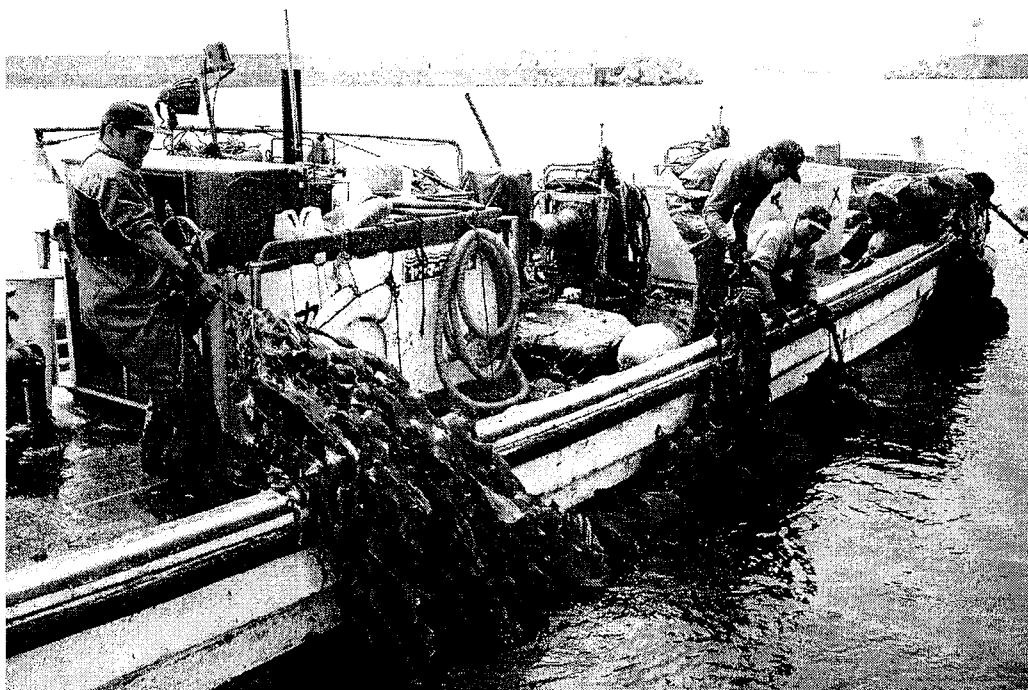
【図2】コンブ生育状況(1年目)



【図3】コンブ生育状況(2年目)



【写真1】初めてのコンブ収穫(500kg)



【写真2】2年目の収穫(700kg)



【写真3】学校給食にコンブを提供



【写真4】都会の子ども達とコンブの種付け



【写真5】NPO「ウーマンズフォーラム魚」の参加者

富山県新湊

たくさんの こども記者が魚に出会った



矢野恒徳組合長(前列中央)はじめ、新湊の漁のとうさん、かめさんと記念撮影。「新湊、漁業」



魚のとうさんが10歳のアリのあつと語る間にさばれていた

「アリのあつと君、この魚は大きいですよ。お父さんがよく釣ります。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

漁師さんの生活、初めて見る魚を

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「真つ赤なカニ」の市場を見学

ウーマンズフォーラム主催
海産物FESTIVAL

こどもとサカナ体験ツアー



白石代表の話

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」



真一画が真っ赤なズワイガニでびっくら!

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

「お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。お父さんが釣った魚は、みんな食べています。」

ウーマンズフォーラム(WFF)
「海産クラブ」のスタッフ

白石ユリ子(代表)、真壁初子、佐藤安紀子、佐藤謙也(カメラマン)、長谷川清、山本善、市崎美千子、渡原優子、長谷川雅彦、浜村理士、森崎裕子、朝日祐樹、阿部優、大原茂、石橋優希

ホームステイした漁師さんのお宅

矢野恒徳組合長、松本隆司さん、縄井謙助さん、野村幹男さん、大坪勇雄さん、縄井恒樹さん、菓子広昭さん、矢野信吉さん、野口友紀さん

受け入れ準備をしてくださった皆さん

新湊漁業協同組合(矢野恒徳代表理事組合長他)
新湊漁協女性部(尾山春枝女性部長他)
新湊漁協青年部(松本隆司青年部長他)
新湊観光協、新湊公民館

「海産クラブ」出のかめさんと話そうよ! シンガリウム、クジラの模様などに一生けんめい取り組んでいます。

Women's Forum for Fish
WFF

海の幸に感謝する会 ウーマンズフォーラム(WFF)事務局
東京都中央区銀座3-17-15 W104-0041
TEL: 03(3443)1201 FAX: 03(3443)1164
http://www.wff.jp E-mail: wff@wff.jp

【写真6】「水産タイムス」掲載記事